

令和4年度全国学力・学習状況調査の成果と課題，質問紙等の傾向について

令和4年4月19日（火）に実施した小学校6年生対象の令和4年度全国学力・学習状況調査結果についてお知らせいたします。

今年度は6年生32人を対象として，国語・算数・理科・児童質問紙についての調査が行われました。全体的な結果として，国語では全国，県の平均とおおむね同じ結果が得られています。しかし，算数や理科においては，県や全国の平均よりも若干下回る結果となっており，問題を的確に読み取って自分の考えを分かりやすく表現したり，記述したりすることが今後の課題となっています。

国語

○成果

身近な話題に関する問題や同音異義語等をよく理解することができています。また，文章全体の構成を捉えて内容の中心となる事柄をしっかりと把握することができています。

○課題

「文章に対する感想や意見を伝え合い，自分のよいところを見つける」問題では，読み取ることに時間がかかったり，字数が足りなかったりしていたことから，条件に合った文章にまとめることが難しかったと考えられます。

○対応策

類似問題の短文に慣れるように，モジュールの時間に「100マス作文」を書いたり，○字以内にまとめる等の条件に合った作文を書いたりしていきます。また，学習した漢字が正確に書けるように，漢字辞典等を活用しながら，知識を深められるように指導してまいります。

算数

○成果

算数では，14と21の最小公倍数を求める問題や， 85×21 の答えが1470よりも必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題等は，県や全国の平均を上回っていることから，基本についてはよく理解できていると考えられます。

○課題

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの，果汁の割合について正しいものを選ぶ問題では，量が半分だから，割合も半分になると誤って理解している児童がみられました。また，示されたプログラムについて，正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す問題では，問題の意味の理解が難しかったり，答え方が分からなかったりする児童がみられました。

○対応策

割合を学習する際に，飲み物の量を半分にすれば，その濃さが変わるかどうかを理解させつつ，その濃さが割合と結びついていることを体験的に指導してまいります。また，プログラミング学習を通して，内角や外角を意識させながら正三角形，長方形，正方形をかかせるなどの学習機会を増やしていきます。

理科

○成果

ナナホシテントウムシの成長の順番についてまとめる問題等では、県や全国の平均を上回り、完全変体の動物の成長過程についてもよく理解ができています。また、メスシリンダーの名称や使い方などの基本的な内容がよく理解されています。

○課題

水溶液の定義や性質についての理解が難しい児童が見られました。また、物理分野の光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に光を当てられる人を選ぶ問題の正答率が低く、問題を正確に読み取り理解することに課題が残る結果となりました。全体的には、考察の根拠を説明する問題について力をつけていくことが課題となっています。

○対応策

水溶液の実験の授業では、水溶液はものが溶けた液体であることを、繰り返し観察して理解が深まるように指導します。また、光の性質についても実験を大切にするとともに、長文問題に慣れるよう練習していきます。日々の授業においては、自分の言葉で考察やまとめを行い、普段から表現力を身に付けられるように指導していきます。さらに、一人一人の「なぜ、そうなるのか」といった疑問を大切にするため、ICTも活用して指導の充実に努めます。

質問紙

○実態

家庭学習に取り組む時間については、平日、休日ともに1時間から2時間程度学習に取り組んでいる児童が最も多くなっています。反面、平日に「全くしない」と回答した児童もみられるなど、家庭学習への取り組みに大きな個人差が生まれています。

○対応策

家庭学習の時間を増やすために「家庭学習のすすめ」を基に、学習計画の立て方や進め方を指導していきます。また、タブレット端末のドリルパーク等の課題により、個人差に応じて学習に取り組むことができるよう援助に努めます。宿題で満足せず、自主学習を励行することで家庭学習の時間を増やしていきたいと考えています。